

## 12 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程修了生のフォローアップ研修の現状と課題

学院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程

篠崎菜穂子、粟生田友子、佐藤雅子、横田陽子、金子育世、堀房子、堀岡美由紀、粕谷陽子

学院、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程が平成23年10月に6ヶ月の研修養成機関として開講した。平成27年3月までに、修了者48名を送り出し、日本看護協会の認定審査を合格し48名の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が誕生した。

日本看護協会認定部より修了生に対してのフォローアップ研修会の開催が推奨されている。当教育課程では、修了生が、認定看護師としての自己の課題を見出し今後の活動について熟思すること、また、脳卒中リハビリテーションに関する新たな知識を充足することで、自己の今後の活動に活かすことを目的に、平成26年2月に第1回フォローアップ研修を開催した。その後平成27年10月までに、合計4回のフォローアップ研修会を開催した。この研修会を通じての現状と課題を述べる。

1. フォローアップ研修会の現状（テーマの推移）では、毎回、新しい知見を充足できる内容の講演と認定活動の活動報告の2本立てで企画をしている。活動報告では、1回目では、グループに分かれ各自の活動状況を伝えることに終始した。2回目の活動報告では、全体でのディスカッションを行い全体共有の場となった。3回目の活動報告では、認定活動の中でより具体的な「企画書の立て方」をテーマとしてディスカッションが行われ、自己の振り返り、企画書の重要性を認識した。4回目の活動報告では、認定活動の使命の一つである「実践」をテーマとして、グループディスカッションを行い他の認定看護師の活動内容を聞き自己の活動のヒントにつながっていた。アンケート結果では、毎回記載される内容では、モチベーションのアップにつながる、自己の振り返りができた、今後の課題が明確になった、意見交換の場となった、他の認定の活動を知る良い機会となったなど、常に好評な意見が多い。研修会の参加率も高く、最低でも76.3%最高で81.5%と関心の高さが伺える。認定看護師となり、活動内容を模索しながら、徐々に活動を広げている現状である。その活動の中で、このフォローアップ研修会は、自己の活動の悩みや問題を明確にすることができ、またモチベーションアップにつながる等の機会となっている有意義な研修とアンケートの結果より考える。認定看護師は「実践」「指導」「相談」の三つの使命があり、日々活動内容を模索し悩みながら活動している。その修了した認定看護師をバックアップし、認定看護師を継続できるよう支援することも教育課程の使命であると考えている。

### 2. 今後の課題

現在は年2回（半年に1回、9月・2月）にフォローアップ研修会を開催することが、定例となってきた。教育課程発信での研修会である。もっと頻回にフォローアップ研修会を実施して欲しいという要望もある。しかし、今後認定看護師自らが、主体性をもち、研修会を企画していく研修会等もあつたらと期待する。

3年間を経過して、フォローアップ研修から言えることは、定例的な活動を確認し合う機会となること、新しい知見を入手すること、複雑な事例への取り組みプロセスを提供し合うこと、既存の知識の再確認となることなどを随時盛り込むことが必要であることが見いだせた。

表1) フォローアップ研修会

日程	構成	テーマ	参加率
第1回 H26.2.20	I部:講演	「脳卒中治療ガイドライン2015改訂に向けて」	78.2%
	II部:活動報告・ 情報交換	(1)認定看護師の活動と課題報告、(2)自己の活動と課題のグループワーク	
第2回 H26.9.2	I部:講演	「脳卒中患者における背面開放座位のエビデンスと活用方法」	81.5%
	II部:活動報告・ 情報交換	(1)活動報告 (2)「認定看護師としての活動と課題」、全体での活動の対してのディスカッション	
第3回 H26.3.9	I部:講演	「認知症と向き合う」	76.3%
	II部:認定看護師 活動成果発表会・ (GW)	(1):①活動報告、②認定看護師の活動に対する 「企画書の立て方」についてグループワーク (2):「認定審査更新に向けて」	
第4回 H26.9.2	I部:講演	「看護研究のすすめ -認定看護師活動の中のテーマの見つけ方とデータ化-」	79.1%
	II部:活動報告 グループワーク	(1)活動報告 (2)グループワーク:テーマ:「認看護師としての『実践』活動とは」	
	III部:講演	「脳卒中ガイドライン 2015 改訂のポイント」	